

オランダにおける植民地責任 ～Rawagede(ラワゲデ)の虐殺をめぐって～

福岡女子大学
吉田信

Rawagede の虐殺

1947年12月9日オランダ軍により西ジャワのRawagede村(現Balongsari:ジャカルタの東約100キロ)において、ひとりを除く村の全男性が殺害される。1945年8月に独立を宣言したインドネシアとの戦闘が続くなかで、1947年7月に「第一次警察行動」がとられていた

虐殺の責任

虐殺を指揮した軍の将校(Alphons Wijnen)は、戦争犯罪の追求を受けなかった。訴追の過程で軍から検察への圧力の存在

虐殺者数をめぐって

・インドネシア

431名(生存者の証言に基づく)

・オランダ

150名 Excessen Nota オランダ政府によるインドネシアにおける戦争犯罪に関する調査報告書(1969年)

補償をめぐる動きと関連事項

1995年8月17日 Excessen van Rawagedeh 放映(RTL-4)

2005年8月16日 Bot 外相, ジャカルタにてインドネシアに対する植民地支配と軍事行動について公式に謝罪

2007年12月9日 Het spoor terug: Het bloedbad van Rawagede 放送(OVT)

2008年1月4日 Krista van Velzen 議員(SP), Rawagede について Verhagen 外相へ質問。外相, 虐殺の再調査を拒否

2008年11月18日 van Bommel 議員(SP)の動議, 下院で可決。在インドネシア大使の追悼式出席実現へ

2008年11月24日 landsadvocaat, 虐殺遺族への書簡において政府としての補償を否定。請求権消失, 二国間問題解決を根拠に。ただし, オランダ軍による虐殺行為は認める

2008年12月9日在インドネシア大使 Nikolaos van Dam, 虐殺の追悼式に出席. オランダの援助団体(Stichting Eerlijk Delen), 遺族9名と生存者1名に5千ユーロを手渡す

2009年1月15日 Verhagen 外相, Rawagede を訪問, インドネシア滞在中過去の支配に対する「深い遺憾の意(diepe spijt)」を示す

2010年10月10日オランダ政府がインドネシア独立を1945年8月17日とすることが明らかに(ハーグ円卓会議を受けた1949年12月27日をこれまで承認)

2010年10月30日虐殺の唯一の生存者(Saih Bin Sakam), オランダを訪問

オランダの戦後補償にみられる二面性

- ・戦後補償をめぐるオランダ政府の対応

対日請求: POW, 従軍慰安婦による日本政府への補償請求を容認

インドネシアからの請求: 戦後補償は二国間条約で解決済(1966年). 民間人の請求権も時効により消滅. 「遺憾の意」は示すが, 「謝罪」ではないことを強調(総論としての公式謝罪, 個別の事案にたいする遺憾の意というレトリックの使い分け)

* Rawagede に対しては, 現在, 開発援助の対象として85万ユーロの投資がおこなわれている

戦後補償を求める民間団体

- ・従軍慰安婦に対する日本政府の「女性のためのアジア平和基金」方式に着目
- ・法廷を通じた補償の実現をはかる

まとめにかえた雑感

- ・日本政府による戦後補償の対応との類似性(レトリックの使い分け, 補償を退ける方法等)
- ・日本では問題視された「アジア平和基金」方式に対する関心の高さ
- ・オランダ議会の無関心. 議会で問題を積極的に取り上げた政治家は少数政党(SP:社会党)に属している→票田としての退役軍人団体の存在が影響か
- ・インドネシアにおける無関心がオランダに対する圧力を形成しない
- ・「警察行動」期の他所での残虐行為に対する補償要求の可能性